

# 「大きな気球見て喜んで」

## バルーンフェスタ 福島の小学生8人招待

### コープさが生協

佐賀市の嘉瀬川河川敷をメイン会場に開かれる「2013佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」(31日～11月4日)に、コープさが生協(本部・佐賀市)が、福島第1原発事故があった福島県内の小学生8人を招待する。福島県生協などをつくる「福島の子ども保護プロジェクト」を通じて企画で、九州での開催は初めて。【春田周平】

プロジェクトは2011年12月に始まった。福島原発事故で子供の健康に不安を抱える保護者への支援が目的。子供が屋外で遊べるよう、週末や夏休みなどに低線量放射線地域に連れて行く活動をしている。13年3月までに計5688人の子供が参加した。

佐賀での開催は、11年3月の東日本大震災以降、被災地に職員を送るなど復興支援

活動をしているコープさが生協の牧興道課長(53)や同生協の理事会のメンバーらが発案した。今年3月、佐賀市であった福島県生協の佐藤一夫専務理事の講演会で「福島では、子供の健康被害を心配する母親がたくさんいる」と現状を知り「佐賀でも子供たちのために何かできないか」と思い立った。チャリティーイベントで資金を募ったり、保護プロジェクト事務局

を通じて福島県内の小学生を募集したりした。来県する小学生8人は11月3日、バルーン会場を訪れる。他にも、吉野ヶ里歴史公園で火起こし体験▽佐賀市富士町の農家で野菜収穫体験▽鹿島市で干潟見学——などを予定する。牧課長は「佐賀といえは、バルーン。大きな気球を見て、喜んでくれるはず」と期待する。コープさが生協は、

被災地支援の募金を続けている。問い合わせは同生協0952・31・9111。

## 福島の子どもを招待

### バルーン 熱気球教室も人気

佐賀市で開かれている「たが、木工品作りなどで佐賀インターナショナルバルーンフェスタは4日目の3日、東日本大震災の被災地となった福島県の子どもたちが招かれ、定期的な企画している。雨が降り、熱気球の体験搭乗会は中止になっ

た。会場を訪れたのは、福島市と本宮市の小学4～6年の8人。河川敷のテント内で、バルーンを描いた木製コースターなどを作った。福島大付属小5年の横山玲音君(10)は「バルーンを見ること



コースターにバルーンを描く子どもたち



バルーンを見上げながら操縦方法などの説明に耳を傾ける熱気球教室の参加者たち

がでなくて残念だったけど楽しかった」と笑顔だった。

また、会場では熱気球の仕組みを解説する教室も開かれている。2日には家族連れなど約500人が参加し、熱気球の操縦方法などを学んだ。3日は中止。最終日の4日は実施予定。

(庄部勇太)



# 雨でも楽しみいろいろ

「佐賀インターナショナル・バルーンフェスタ」(佐賀市の嘉瀬川河川敷) 4日目は3日、雨で午前、午後の競技と夜間係留が中止になった。唐津くんちを見てから、孫と訪れた貞末利勝さん(72)北九州市は「期待して来たけど残念。また来年ですね」と話し、会場を後にした。来場者は「憩いの広場」でお土産を選んだり、地元食材を使ったカレーや牛丼に舌鼓を打った。午後の競技中止が発表された後、主催者の計らいでバルーンの球皮内体験などもあった。(大塚堅志、久保禎一、小川綾)

## 福島の児童が木工体験

### 佐賀市産材使い丁寧

○：福島第一原発事 故があった福島県内の小学生8人が3日午前、嘉瀬川河川敷を訪れた。雨が降るあいにくの天気となり、予定していた係留体験などが中止に。特設会場を



子どもたちは佐賀市産材のヒノキを使ったストラップやコースター作り挑戦。キリで穴を開けたドンケリをストラップに取り付け、バルーンの下絵に丁寧に色を塗っていた。

バルーンフェスタに訪れた福島県の小学生たち。木材のコースターとストラップに色づけをした。佐賀市の嘉瀬川河川敷

た。五百川小6年の関根圭澄さん(10)は「楽しみにしてたら、バルーンが飛べなかったのは残念。でもストラップは上手にできた」と笑顔だった。コープさが生協と県ユニセフ協会が主催。放射線の影響で外遊びに不安を抱く保護者を支援しようと、福島県生協などが企画する「福島の子ども保養プロジェクト」を通し招待した。滞在費は生協の組合員からの募金や5月に開いた絵画展の売上金を充てた。ツアーは2泊3日の日程で開かれた。小学生は吉野ヶ里歴史公園の見学や富士町での野菜収穫を体験。最終日の4日は鹿島市七浦でミニ狩りを体験し、帰宅する。

荒売 20日 11.4



ストラップを作る福島の子どもたち

## 福島の小学生 ストラップ作り

2013佐賀インターナショナルバルーンフェスタの4日目となる3日、福島県の東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地域などに住む小学生8人が、主催の佐賀市の嘉瀬川河川敷を訪れ、イベントに参加した。満足に外で遊べなくなった福島の子どもたちを元気づけるため、福島県生協連合会などが進めている「福島の子ども保養プロジェクト」の一環で、コープさが生協が招待した。この日は雨の影響で、競技と係留は中止になり、8人は会場内で行われていた木工教室などに参加。きりを使ってどんぐりに穴を開けてひもを通し、熱気球が彫られた佐賀市産のヒノキの板(縦4寸、横2寸、厚さ0.5寸)をつないでストラップを作った。福島市野田町の小学4年未永麗名さん(10)は「飛んでいるバルーンを見ることができず残念だったけど、ストラップ作りは楽しかった。お父さんにあげたい」と話していた。